

中 勘 助 作 品 年 表

銚 立 春 佳

大正元年（一九二二）

八月 「夢の日記」 新小説17―8

（小宮豊隆の推薦で「大内生」と署名してある）

大正二年（一九一三）

四月八日より六月四日まで

「銀の匙」 朝日新聞に連載

（夏目漱石の推薦でこれより「那迦」と署名）

大正四年（一九一五）

四月十七日より六月二日まで

「つむじまがり」 朝日新聞に連載

載（後「銀の匙（後篇）」と改題）

大正六年（一九一七）

十一月 「夏目先生と私」 三田文学8―

11

大正十年（一九二二）

五月 「提婆達多」を新潮社より刊行

（森田草平の紹介による）

十二月 『銀の匙』（「夏目先生と私」収録）を岩波書店より刊行

大正十一年（一九二二）

四月 「犬（未定稿）」 思想7号

（これ以後「中勘助」と署名）

七月・八月

「沼のほとり」 思想に連載

十一月・十二月

「孟宗の蔭」 思想に連載

大正十二年（一九二三）

二月・四月・五月

「郊外」△郊外その二▽ 思想に連載

七月 「沼のほとり」 思想22号

大正十三年（一九二四）

一月 「沼のほとり」 思想27号

五月 『犬』（『島守』収録）を岩波書店より刊行

店より刊行

八月 「東京」 思想34号

九月 「貝桶」 思想35号

十二月 「孟宗の蔭」 思想38号

大正十四年（一九二五）

四月 「東京」 思想42号

- 五月 「病床」 思想43号
- 七月 『沼のほとり』（「孟宗の蔭」収録）を岩波書店より刊行
- 九月 「兵營」 思想47号
- 昭和元年（一九二六）
- 二月・三月 「衛戍病院」 思想に連載
- 八月・九月・十一月 「しづかな流」 思想に連載
- 昭和二年（一九二七）
- 二月・三月・四月・六月 「しづかな流」 思想に連載
- 八月 「孔子（未定稿）」 思想70号
- 十一月 「しづかな流」 思想73号
- 昭和三年（一九二八）
- 二月 「しづかな流」 思想76号
- 四月 「沼のほとり」 思想78号
- 六月 「しづかな流」 思想80号
- 七月 「妹の死」 思想81号
- 昭和四年（一九二九）
- 九月 「しづかな流」 思想88号
- 十月 「菩提樹の蔭」 思想89号
- 十一月 「しづかな流」 思想90号
- 昭和五年（一九三〇）
- 三月 「しづかな流」 思想94号
- （これまでの分が後に「しづかな流（一）」と纏められ、九月以降に発表された分が「しづかな流（二）」とされた）
- 九月・十一月 「しづかな流」 思想に連載
- 昭和六年（一九三一）
- 一月・二月 「しづかな流」 思想に連載
- 四月 『菩提樹の蔭』（「病床」「兵營」「衛戍病院」「妹の死」「貝桶」「沼のほとり」「孔子」収録）を岩波書店より刊行
- 六月・七月・八月・九月・十一月・十二月 「しづかな流」 思想に連載
- 昭和七年（一九三二）
- 六月 『しづかな流』（（一）の部分のみ）を岩波書店より刊行
- 十一月 「孟宗の蔭」 思想126号
- 昭和八年（一九三三）
- 二月 「孟宗の蔭」 思想129号
- 三月・四月 「裾野」 思想に連載
- 六月 「雁の話鳥物語の内」 思想133号
- 八月 「しづかな流」 思想135号
- 十一月 「隨筆」△街路樹▽ 思想138号
- 十二月 「郊外」△郊外その一▽ 思想139号
- 昭和九年（一九三四）
- 二月 「隨筆」△街路樹▽ 思想141号
- 三月・七月・八月・九月・十一月 「しづかな流」 思想に連載
- 十二月 「母の死」 思想151号
- 昭和十年（一九三五）
- 一月・二月・三月 「しづかな流」 思想に連載

| | | | | | |
|------------------|---|---------------|---------------------------|-------------|-------------------------------|
| 三月 | 詩集『琅玕』を岩波書店より刊行 | 二月 | 「随筆」△街路樹▽ 思想177号 | 四月 | 詩「オツペンハイマー先生の来遊」 |
| 四月 | 「母の死」(「雁の話」「ゆめ」 | 五月・六月 | 「網ひき」 思想に連載 | 五月 | 新風土2-3 |
| | 「郊外その二」「孟宗の蔭」「裾野」「郊外その一」「秋草」「小箱」「折紙」「あしべ踊」収録) | 六月 | 『街路樹』(「しづかな流」収録)を岩波書店より刊行 | 五月 | 詩「徒刑」 新風土2-4 |
| 六月・七月 | を岩波書店より刊行 | 十月 | 詩集『吾往かん』を岩波書店より刊行 | 六月 | 詩「りす」 新風土2-5 |
| | | 昭和十三年(一九三八) | | 九月 | 詩集『百城を落す』を岩波書店より刊行 |
| | 「しづかな流」 思想に連載 | 七月 | 「林園」 新風土1-2 | 十一月 | 詩「逍遙」 新風土2-10 |
| 十一月 | 「黒幕」 思想特輯漱石記念号 | 八月 | 「詩二つ」(「りんご」「X光線」) | 十二月 | 「きもの」 新風土2-11 |
| 昭和十一年(一九三六) | | 新風土1-3 | | 昭和十五年(一九四〇) | |
| 二月・四月 | | 「大戦の詩」 思想195号 | | 四月 | 「随筆」△逍遙▽ 新風土3-2 |
| | 「しづかな流」 思想に連載 | 九月 | 「七月十九日の詩」 思想196号 | 五月 | 「逍遙」(「夏目先生と私」「黒幕」収録)を岩波書店より刊行 |
| 五月 | 詩集『機之音』を岩波書店より刊行 | 十一月 | 詩「魂祭」 新風土1-4 | 昭和十六年(一九四一) | |
| | | 十一月 | 詩「蟹とり」 新風土1-6 | 一月 | 「膽石」 新風土4-1 |
| 五月・八月・九月・十一月・十二月 | | 十二月 | 詩「戚夫人」 思想198号 | 二月 | 「氷を割る」 思想225号 |
| | 「随筆」△街路樹▽ 思想に連載 | 十二月 | 詩集『大戦の詩』を岩波書店より刊行 | 十月 | 『鳩の話』(「氷を割る」収録)を岩波書店より刊行 |
| 十二月 | 詩集『海にうかばん』を岩波書店より刊行 | 昭和十四年(一九三九) | | | |
| 昭和十二年(一九三七) | | 二月 | 「随筆」△逍遙▽ 新風土2-2 | 昭和十七年(一九四二) | |

- 一月 「隨筆」△逍遙以後疎開まで▽ 新風
- 三月 詩集『飛鳥』を筑摩書房より刊行
- 昭和十八年（一九四三）
- 五月 『蜜蜂』を筑摩書房より刊行
- 六月 「口子への手紙」△妙子への手紙▽
八雲第2輯
- 昭和二十一年（一九四六）
- 三月 「結婚」朝日評論創刊号
- 六月 「ひばりの話」フレンド（幼年雑誌）
- 八月 「鶯とほととぎすの話」世界8号（後、改作され「鶯の話」となる）
- 「遺品」高原第一輯
- 十月 詩「モーツァルト」令女界24—
- 6
- 昭和二十二年（一九四七）
- 七月 隨筆集『餘生』（「結婚」「餘生」「妙子への手紙」「トランプ」「チヤリネ」「柳先生」「林園」「きもの」「本朝二十四孝」「ひばりの話」）を八雲書店より刊行
- 昭和二十三年（一九四八）
- 一月 「雀のお宿」村の科学9号
- 二月 「闘球盤」村の科学10号
- 「鶴の話」（「故椎貝壽郎氏の思ひ出」「網ひき」「闘球盤」「筆」詩収録）を山根書店より刊行
- 五月 「村の酵母」村の科学11号
- 九月 「玉手箱」村の科学14号
- 十月 「隨筆」△樟ヶ谷▽ 教育と社会 3—10
- 十一月 「隨筆」△樟ヶ谷▽ 手帖第4冊
- 昭和二十四年（一九四九）
- 一月・三月 「服織にて」△樟ヶ谷▽ 文藝に連載
- 七月 「服織」△樟ヶ谷▽ 新潮46—7
- 九月 「白鳥の話」文藝6—9
- 「いかるの話」女性線4—9
- 十二月 「服織」△樟ヶ谷▽ 心2—12
- 昭和二十五年（一九五〇）
- 二月 「服織」△樟ヶ谷▽ 心3—2
- 十一月 「服織」△樟ヶ谷▽ 心3—11
- 昭和二十六年（一九五一）
- 一月 「白鳥の話」（「いかるの話」「隨筆」詩俳句収録）を角川書店より刊行
- 「童話の門」（續「銀の匙」）
- 日本評論26—1（後、「花さか爺」と改題）
- 六月 詩集『藁科』を山根書店より刊行
- 八月 「服織」△樟ヶ谷▽ 短歌研究8—
- 8
- 十月 詩「鳴子百合をうゑて」「こま」「誰か第一に我を拝せし」婦人

公論 37—10

十一月 「服織」△樟ヶ谷▽ 心 4—7

(復刊第2号)

昭和二十七年(一九五二)

一月 「こまの歌」 新潮 49—1

「先生の手紙と『銀の匙』前後」

中央公論 67—1

三月 詩「鯛」 婦人の友 46—3

五月 「服織」△樟ヶ谷▽ 隨筆 1—5

八月 「羽鳥」 旅 26—8

九月 「羽鳥」 心 5—9

十月 「服織」△羽鳥▽ 真理 18—10

十七日 「ブドウ園の人」 朝日新聞

十一月 詩「ひとり鷗」 「白鷺」 文藝 9

—13

昭和二十八年(一九五三)

三月 「服織」△樟ヶ谷▽ 美しい暮しの

手帳 19号

六月 「鷹の話(一)」 心 6—6

七月 「鷹の話(二)」 心 6—7

九月 「羽鳥」 婦人の友 47—9

十月 「羽鳥」 婦人公論 38—10

十二月六日 「盲目」 朝日新聞

昭和二十九年(一九五四)

四月 「羽鳥」 心 7—4

七月 「鶉の話」 婦人公論 39—7

八月 「鶉の話」 心 7—8

「羽鳥」 コスモス 2—8

十月 「藁麥」 知性 1—10

十日 「がん」 朝日新聞

二十一日 「たご」 毎日新聞夕刊

十一月 「羽鳥」 心 7—11

昭和三十年(一九五五)

一月 「深大寺」 真理 21—1

四月 「羽鳥」 心 8—4

七月 「寺田寅彦・森田草平・鈴木三重

吉三氏の思ひ出」 筑摩書房刊

「現代日本文学全集」の月報 34

九月 「羽鳥」 心 8—9

大野亮子著『続ピアノ日記』(音

楽の友社刊)に序を書く

三十日 「名月」 朝日新聞

十月 「羽鳥」 心 8—10

「くひな笛」 俳句 4—10

十二月 「戦記と思ひ出」 心 8—12

昭和三十一年(一九五六)

四月 「舊友」 心 9—4

七月 「羽鳥」 心 9—7

十月 「羽鳥」 心 9—10

昭和三十二年(一九五七)

一月 「呪縛」 新潮 54—1

「猫の親子」 心 10—1

三月 「羽鳥」 心 10—3

『くひな笛』(小品として「まゆ

み」「隨筆」「染めかへ」「雀の

お宿」「盲目」「そば」「深大寺」

「晩秋」「雷の太鼓とちやるめ

ら」「七十年」「名月」「くひな

笛」「瑠璃鳥」「たご」「戦記と

思ひ出」「舊友」 詩八篇、隨筆

として「樟ヶ谷」「羽鳥」を宝 一月 「独り暮」 文芸春秋37―1 十二月二十七日 「和辻さんの思ひ出」 産経新聞
文館より刊行

四月 「詩五篇」(「孫子」「瞿低迦」 二月 「羽鳥」 心12―1 昭和三十六年(一九六一)

「アヌルツドハ」「竹簡」「白鳩」 五月・七月・八月 心10―4 「忘れ庵」 心に連載 二月・三月・四月・九月・十月

五月 「羽鳥」 心10―5 八月 「能のみはじめ」 能楽思潮8・ 十一月 「鬼灯」 心14―11 昭和三十七年(一九六二)

七月 「詩七篇」(「パステール」 9合併号 九月 「伊豆の旅」 研修135号 十一月 「古國の詩―鶴林寺」 心15―11

「五色の鹿」「二刃の笛」「顔回」 九月 「忘れ庵」 心12―11 十二月 「水尾寂暁師と三千院」 心15―11

「浮彫」「聖画」「曾子」 心 十一月 昭和三十五年(一九六〇)

10―7 十一月 「思ひ出すことども」 心10―11 二月・三月・四月 「小百合さんの思ひ出」 心に連 一月 「古國の詩―曼珠院、梶の尾」

昭和三十三年(一九五八) 一月 「古國の詩から」 真理24―1 載 五月五日 「府中のけやき」 朝日新聞 心15―1

二月 「古國の詩から」 心11―2 「るりを飼う」 婦人朝日145号 六月・七月 「天の橋立」 心に連載 二月 「風と幟」 心16―2

七月 「古國の詩から」 心11―7 九月・十月 「羽鳥」 心に連載 五月 「かささぎの話」 16―5

十月 「鹿苑寺」 禅文化12・13合併号 十一月・十二月 「忘れ庵」 心に連載 六月 「雉子の話」 16―6

十一月 「古國の詩から」 心11―11 昭和三十四年(一九五九) 「日記」△随筆▽ 心に連載 七月・八月 「歸京」 心に連載

十二月二十四日 「寄せなべ」 朝日新聞 十一月・十二月 「忘れ庵」 心に連載

昭和三十四年(一九五九) 「忘れ庵」 心に連載

昭和三十九年（一九六四）

一月 詩「雛の命」 真理30—1

「随筆」 翌四十年十月まで心17

—1—18—10に毎号連載

三月二十日 「お彼岸」△ひがん▽ 朝日新聞

聞

昭和四十年（一九六五）

一月十日 「ひざ」 朝日新聞夕刊

二月 「随筆」（「織姫」「護符」「彫

像」）學燈62—2

三月二十四日 「姥酒」 毎日新聞夕刊

四月二十四日 「このごろ」 朝日新聞

五月 「瑠璃鳥の死」 婦人公論50—5

五月三日死去の為、心 6月号以降掲載の

「随筆」は遺稿となる。

註 作品名の下の△▽内は単行本・全

集における改題

左に記す二十一の作品は発表年月、掲載

誌等が不明の為、年表から省いた。

昭和二十六年～三十年に発表されたと

思われるもの

「亮ちゃんの思ひ出」

「追憶」

「あんかう」

「齋藤茂吉氏の思ひ出」

「私の処女作と自信作」

「日露戦争」

「あのころ」

昭和三十二年？

「餅」

「辭世」

昭和三十四年？

「姉妹」

昭和三十五年？

「古都のかをり」

「わらしな川」

「十六むさし」

昭和三十六年？

「師走」

昭和三十九年？

「風のごとし」

「やどかり」

「タゴの夢」

「インドの古美術」

昭和四十年？

「交遊抄」

「讀書について」

「あの山あの川」

（昭四三 日文卒）